

直觀の指導について

東京女高師附屬小學校 吉 田 弘

一

幼兒に對しては些の經驗もなき事故、言ふ處が果して妥當であるか怪しいものであるが、小學校兒童の初學年に對する經驗からして自分の考へを述べて見たいと思ふ。

直觀に於ては觀察すること、つまり視覺を訓練することが主であらうが、それと同時に他の感官の働きを練ることをも忘れてはならぬ。彼等の環境として存在する事物や自然物と彼らとを結びつけるのはこの感官の働きであつて、この感官がよく洗練されてゐる時に、彼らの心意發達が順調に運ぶのは言ふまでもないことである、尙かゝる部面のみでなく、郷土の風物、諸施設神社佛閣等に遊ばして愛郷の念を盛にするとか、事物を取扱はせることによつて、自律的の行動が出来る様に指導するとか、他と共に共同動作をなさしめて社會的陶冶の一端とするとかいふことも期待することが出来るやう。殊に自然物を愛玩して自然と共に樂しみ、自然を愛することが出来るやうになれば、粗暴とか慘虐とかいふ野蠻性を如何許り他に轉向し得ることであらう。

幼児らしき、遊びの中に自然にそうした効果が上げられる様に遊びを指導することが、幼児の直観指導としては最も當を得たものであらうと思ふ。クローバの密生せる原に遊びて、四つ葉を捜させるだけでも幼児相當の觀察指導になる。こほろぎを捕ふること、とのさまばつたを捕ふると、その時子供には如何に仔細に草原をあさることであらう、又それを捕へんとして身がまへすること、靜かに身體を動かして敏捷なる四肢の運動に移つること、そうした動きが如何許り適確なる筋肉運動練習の機會となり得ることであらう。嬉々として自然の中に楽しむことその事だけでも精神的に見て又身體的に見てその効果は大なるものがあらう。

種々の形の木の葉や草の葉を集むること、違ふ色合の小石を集めしむること、違つた種類の花を集めしむることなど單なる草原であつても、單なる林の中であつても庭先であつても、子供の遊ぶ材料は甚だ多い。

以上は自然に存在するものの中に遊びを見出すことであるが、種子をまかして見るとか、苗を植ゑさせるとかいふことが出来れば、自然と我との交渉は更に一段と親密なものとなり、直観に於て期待する所は一段と發揮することであらう。尤も尋常一年にしてもかなりの程度までは教師の補助を要すること故幼児になさしむる時には殆んど大部分を教師がしなければならぬかも知れぬ。しかし譬へ幼児が自身

に手を下す處は少かつたにしても、教師と共にし又仲間と共にしして自分達のものとして之を見る時には、又格別の親しみをもち得るもの故、この點が直觀指導に於て望ましい所なのである。

三

植物の栽培といふことにも大なる効果があるが、動物の飼育といふことは相手は動物だけに一段と子供の興味を曳き、自然愛の感情を湧起することは一層のことである。子供自身に飼育し得るものも甚だ多い、こほろぎ、金魚などはその一例で、又相當の教師の補助があるならば小鳥なども飼育せしめ得るであらう。又子供ら自身に飼育せしめなくても雞、小鳥、山羊、兎、鼠、猿等を教師の方にて飼育し、餌を投げしむるだけでも動物愛護の心持をもたせることは出来るやうにならう。只この時に注意すべきことは一寸した注意で効果を一段と發揮せしめ得ることである。動物愛護といふことは自身と動物との關係を深くすることであつて、學校のものといふより自分のものといふ時に餘計親しみを感し得るもの故飼育されたる動物を自分のものと思はせる様にすることが肝要である。それがためには各動物に子供らを振り當て、餌をやることの責任を各子供らにもたせる様なことも一手段であると思ふが、之はほんの一例であるがかうした點にも相當の注意は拂はねばならぬ。

四

小學校に於ては植物や動物に關するものを材料として直觀を指導するのみでなく、自分の家とか自分

の學校とか郷土といふものも材料に取つてゐる。之らの材料では觀察方面のことよりも愛郷の念を養ふことを主とするのであるが、觀察方面の効果も全く無視するといふわけではない。東京の如き所であると學校附近の街々を巡廻して、小間物店とか反物店とか夫々の店に如何なるものを賣つてゐるかとか、どんな看板をかゝげてゐるかとか、自分の郷土に對する相當の了解をなさしめ、そこに自分の郷土といふものゝ意識を鮮明にして愛郷の念を養ふことの一助にしてゐる。殊に附近の神社、佛閣、名所、公園などを巡廻して郷土といふ感じを強くし度いと考へてゐる。我々田舎に育つたものゝ腦裏に刻みつけられてゐるものは何であるか、屋敷の周りの大木の枝振り、鎮守の森の崇巖は、眼前に聳えた親しき山姿川岸にころがる大石の形、遠く故里を離れて十數年を経過した今日でも、故郷を憶へばあり／＼と浮んで來るではないか。故郷を望んで車中にある時、第一に眼を曳くものは何であるか、子供の時から常に見馴れた山の形ではないか。數年振りの歸省に路傍の木石と雖も幼き頃より見馴れたものが如何に我らの愛郷心をそゝることか。即ち郷土の特徴ある凡べてのものが、愛郷心のからくりとなるのである。この點に於て都會に生活する兒童を憂ふるものである。何處まで行つても一樣なる商店の連續と電車線路の連續である、何處に郷土としての特徴があるか。特徴なき郷土に愛郷心をつなぐことの困難なるを痛感するものである。

山川に特徴ある國の國民は愛國心強烈であるが、山川の何等の特徴なく百里行くとも千里走るも土地

の柏子何等の變化なき國の國民には愛郷心が乏しいと言はれるが、都會地に住する人々はどつちかといふと後者に近いので注意を要するのである。周圍の街、名所等を度々巡廻して郷土としての意識を顯徴にせんと努力してゐるのはそこである。都會兒と雖も注意次第では郷土意識を明確にすることが出來やうといふのがかゝる材料を直觀科に於て採用してゐる理由である。三ッ兒の魂百迄といふから幼兒の直觀指導に於ても、小學校の直觀科に於ての我々の期待を了解して戴いて、かうした方面にも考慮を費して戴き度いと思ふ。

五

小學校に於て直觀科といふと多く自然物や自然現象を對象としてゐるので、屢々理科の初歩であるとして誤解されるのであるが、この點に就ては前述の如き期待をもつてゐることを了解された以上は此の上に辯明を要しないことと思ふ。尙自然物自然現象のみならず、前述の如き種々の社會的材料を取扱ふ時、それらに關する知識を覺えさせるものであると早呑み込みをする向もあるが、直觀科に於て望む處は決してそうした實質的のものでなく、まあ形式的陶冶の方面が主であつて、一口で言ふならば自然界と社會との間に子供らをして人間として順當に發展させるといふのが目的であるともいへやう。

幼兒教育に經驗なき自分が單なる小學校の初年級の經驗から、當推量で述べたのであるから幾多當外得ない所があらうと思ふ。他山の石として述べて來た中の一行でもが、御參考になる處があつたら望むの喜びである。——をばり——